

# 日清戦争中に発行された絵入り新聞



1894年(明治27)「三国交渉朝鮮絵報(第2集)」

勝見宗左衛門家文書(当館蔵) [デジタルアーカイブへ](#)

## 解説

1894年(明治27)7月に始まった**日清戦争**は、日本が優勢に戦いを進め、1895年(明治28)4月17日、**下関条約**が調印されました。この条約では、清国からの朝鮮の独立、遼東半島・台湾・澎湖島の割譲、賠償金約3億円の支払、欧米なみの通商条約の締結などが約束されました。その6日後の23日、ロシアはフランス・ドイツの三国共同で遼東半島の返還を勧告し、ただちにロシア・ドイツ両艦隊は示威行動を開始しました(**三国干涉**)。政府はイギリス・アメリカの助力を期待しましたが成功せず、5月4日、三国に遼東半島放棄を通告し、8日には講和条約批准書の交換も終わりました。

この三国干涉は日本国民に大きな衝撃を与え、政府は「臥薪嘗胆」を唱える国民のロシアへの敵意を利用して軍備増強を推進していくことになります。

## 福井との関わり

1895年(明治28)5月の福井県内は、息詰まるような緊迫した情勢の中で、戦勝気分一杯の祝賀行事が各地で行われています。反面、遼東半島の返還を憤る世論は、派手に「祝賀」を演出して三国干涉の「屈辱」を打ち消そうとする県や市町村の当局を次のように批判しています。

「夫れ、遼東半島還付に関する詔勅を拝読しては、臣民たるもの誰か、叡慮の長きに感泣嘘噓(かんきゅうきょき)せざるものあらんや……今乃ち、宜しく謹慎以て叡慮の長きに副へ奉るべき時に於て、山車を曳出し、烟火を打揚げ、歌舞音曲を催さんとす。民の之を為す、尚ほ禁ずべし。而かるを、民の上に立つものにして之を命じ、之を懲慙するは何ぞや。」  
 (『福井』明28・5・17社説「狂する勿れ」)。

## 資料の注目ポイント!!

1894年(明治27)8月4日、日清戦争中に発行された絵報(絵入りの新聞)です。“大院君”、“事大党と独立党”、“李鴻章”など朝鮮問題から日清戦争に関わる事項(人物)について挿絵入りで紹介しています。

## 関連資料

名称	概要	備考
「三国交渉朝鮮絵報（第2集）」	勝見宗左衛門家文書（当館蔵） B0037-00626	デジタルアーカイブ福井で閲覧可能。 <a href="https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=011-340582-1-p1">https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=011-340582-1-p1</a>
「日清戦争絵報（第1号）」	勝見宗左衛門家文書（当館蔵） B0037-00630	デジタルアーカイブ福井で閲覧可能。 <a href="https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=011-340586-1-p1">https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=011-340586-1-p1</a>
新聞『福井』明28・5・17社説 「狂する勿れ」	三国干渉による遼東半島返還にいたったことを覆い隠そうとする国、県、市について批判している社説	当館、新聞複製本にて閲覧可能。

## 参考文献

- ・『国史大辞典』 吉川弘文館
- ・『日本史（A B 共通） 教授資料 研究編』 山川出版社